

向日市報

まちのうごき

(10月1日現在)	(9月中)	
世帯数 16,195世帯	生れた人 81人	
人口 51,194人	亡くなった人 17人	
男 25,270人	転入した人 242人	
女 25,924人	転出した人 234人	

昭和56年度決算総額は、108億円に

- ◆ 昭和五十六年度の一般会計、特別会計の決算が、九月に開かれた市議会にて認定されました。
- ◆ 前年度から厳しい地方財政の状況の下、市では、財源の重点的・効率的配分に努め、決算額は、一般会計・特別会計(国保・下水道・水道・農業共済)合わせて、総額百八億一千三百三万円となりました。

◎一般会計の規模と収支
五十六年度一般会計の決算額は、歳入八十一億八千二百八十八万円(前年度比九億五千六百七十七万八千円、一三・二%の増)、歳出八十一億四千八百八十九万五千円(前年度比九億六千六百四十四万四千円、一三・四%の増)です。

決算収支は、三千四百七十七万七千円の黒字となり、道路新設改良事業等にかかる繰越明許費繰越額十二万円を控除した実質収支額は、三千四百六十五万七千円の黒字となっています。

また、五十五年からの繰越金三千三百二十五万九千円を控除し単年度収支においても、百政配分がなされています。

財政運営の効率化に努力

56年度の主な事業

- ◇ 都市計画 久世北茶屋屋敷街路整備。公園の新設・整備。市街地再開発事業の調査研究
- ◇ 環境衛生 害虫駆除や防疫薬剤の給付。騒音、大気汚染、水質汚濁などの監視
- ◇ 交通安全 駅前放物車・自転車対策。交通安全教室やセーフティクラブの開設
- ◇ 清掃 可燃ゴミ・不燃ゴミの収集、し尿収集
- ◇ 消防 五十五、五十六年度継続事業として消防庁舎の建設。防火水槽の有がいの整備
- ◇ 市民の福祉と健康を守り高める
 - ◇ 老人福祉 老人福祉センターの諸事業の充実。老人クラブへの助成。ねたきり老人・ひとり暮らし老人に対するホームヘルパーの派遣。新たにねたきり老人に対する訪問看護指導の実施
 - ◇ 障害者福祉 市民のつどいの開催。福祉タクシー制度の創設
- ◇ 児童福祉 各保育所の整備。児童公園の新設。無認可保育所にかかる補助など
- ◇ 健康 成人病予防対策として胃ガン、循環器、乳ガンなどの検診の実施。母子保健対策として母親教室、乳幼児相談などの実施
- ◇ 教育と文化の充実
 - ◇ 学校 第5・第6向陽小学校校舎の買取り。施設面での学校間格差解消のため各小学校の維持補修。
 - ◇ 社会教育 生涯教育の場としての地区公民館の建設。史跡長岡宮跡築地遺構を史跡公園として整備
 - ◇ 社会体育 スポーツ大会やスポーツ教室の開催。指導員・スポーツ少年団の育成

56年度決算報告



民秋市長

私は、市長二期目の後、政運営の効率化を図ることに半心半意、常々申し上げてまいりました。ところが、地方自治の原点に立ち、清潔で明るい市民本位の市政の確立を基本に、心のふれあう住みよいまちづくりをめざして、市民の福祉を高める施策の推進に全力を傾注してまいりました。

ところで、行政を取り巻く社会経済情勢は、先行き不安定な様相を呈し、今日の経済の低成長下における地方財政は、ますます厳しい状況にあります。したがって、このような情勢に対処して、市民のくらしを守る諸施策を進めるためには、行政

政運営の効率化を図るに、可能な限りの歳入の確保を、市民の福祉を高める事業を中心に補正を図り、歳入歳出予算規模を前年度事業繰越分と合わせ、八十二億五千八百二十六万一千円とし、当初予算に比し、十九億五千三百七十六万一千円の増と致したものであります。

このような予算規模における昭和五十六年度の行政施策の執行にあたりまして、市民の方々のご理解とご協力を得て、積極的な推進を図ることができましたことは、誠に感謝にたえない次第であります。ここに厚くお礼申し上げます。

積極的な施策の推進を

つたものであります。その結果、当初六十三億四千五百万円でありました一般会計の予算規模が、その後、地方交付税や国庫支出金の伸びをはじめ、市債の確保や積立

とくべつかいけい 特別会計 とくべつかいけい 特別会計 とくべつかいけい 特別会計 とくべつかいけい 特別会計

国保会計

昭和五十六年度の国民健康保険事業会計の決算額は、歳入十一億五千二百七十六万六千円(前年度比一七・五%の増加)、歳出十一億六千五百四十四万二千円(前年度比一九・二%の増加)です。

したがって、五十六年度は七百七十七万六千円の歳入不足となりました。

歳入の主なもの、国庫支出金五四・一%、保険料四二・三%など、歳出の主のものは、保険給付費九五・四%となっています。

下水道会計

昭和五十六年度の下水道事業特別会計の決算額は、歳入八億八千六百二十二万一千円(前年度比二六・四%の増加)、歳出八億八千二百一十四万四千円(前年度比二六・四%の増加)です。

したがって、五十六年度は四百二十万七千円の繰越となりました。

歳入の主なものは、地方債四九・五%、繰入金三一・六%、国庫支出金一四・五%などで、歳出の主なものは、事業費七三・九%となっています。

水道会計

昭和五十六年度の水道事業会計の決算額は、事業収益においては七億三千六百一十千円(前年度比九・六%の増加)、一方事業費用は六億一千三百九十九万五千円(前年度比四・五%の増加)です。

したがって、五十六年度は八千九百九十六万六千円の純利益が生じました。

事業収益の主要部分を占める給水収益は、五億三千八百四十四万六千円と前年度に比し二・一%の増収となりました。

農業共済会計

農業共済事業は、向日市農業共済組合から共済事業の移譲によりまして、昭和五十六年度から市が共済事業を行うことになりました。

昭和五十六年度農業共済事業特別会計の決算額は、収益的収入総額一千四百九十一万五千円、収益的支出総額九百九十九万六千円です。したがって、五十六年度は五百七十一万九千円の純利益が生じました。

市民一人当たりは

昭和56年度、市民1人当たりに使われたお金は次のようになっています。

議会費	2,619円	土木費	1,278円
総務費	20,922円	消防費	20,530円
民生費	30,185円	教育費	10,279円
衛生費	18,979円	教育費	40,763円
労働費	925円	公債費	13,209円
農林水産業費	2,321円	諸支出金	102円

